【保健主事部会】

新型コロナウィルス感染症を健康教育にとってのチャンスととらえ、感染症を予防するための正しい知識を身に付け、積極的に活用・発信することで、自らの健康を守るとともに、身の周りの人々の健康にも意識をもったり、働きかけたりすることができる児童・生徒の育成

～保健主事のマネジメントの在り方と、三師会との連携による健康教育の推進～

１　はじめに

２０２０年から世界的に感染が拡大した新型コロナウイルス感染症。効果的な治療法や薬がなく、緊急事態宣言やまん延防止重点措置等が繰り返し発出される中、変異株の出現もあり、感染拡大の波は７回を数えた。また、これまでにも、インフルエンザや感染性胃腸炎をはじめとする種々の感染症が流行をし、学校ではその感染拡大防止に努めてきた。さらに、児童生徒が生きていくこれからの世の中では、人にとって脅威となる新たなウイルスの出現、感染症の流行も考えられる。

そこで、この新型コロナウイルス感染症を健康教育のチャンスと捉え、これからの社会を担う児童生徒が感染症を予防するための正しい知識や能力を身に付けて、「自ら生き抜く力」として発揮できるとともに、身近な人々の健康にも意識をもったり、働きかけたりすることができるようにする実践こそが私たちの使命であると考えた。

２　児童生徒の実態

感染防止に対する基本的な知識をもっているが、主体的、継続的に行動することがなかなかできない。学校や家庭における感染防止対策については、それらの多くは教師や家族の大人主導であった。また、自らが健康に関する正しい情報を入手し、自分はもちろん周囲の仲間や家族の健康に関心をもち、効果的に活用する力が弱い。

３　願う児童生徒の姿

コロナ禍～ポストコロナ時代を生き抜き、これからの社会を担う者として、自らの感染防止や健康の維持に主体的に取り組み、身に付けた知識や力を、家族をはじめ自分の身の周りの人々に発信したり働きかけをしたりして、自他の命を大切にできる能力や態度を身に付けさせたい。

４　研究仮説

保健主事の役割を明確にして実践を進めるとともに、三師会との積極的な連携を図ることで、学校における効果的な保健指導の在り方や道筋を明らかにすることができる。それらを、本研究やこれからの保健指導に生かすことで、主体的に自らの健康を守るとともに、身の回りの人々の健康にも意識をもったり、働きかけたりすることができる児童・生徒を育成することができる。

５　研究を進める上での保健主事の役割

研究を円滑に進め効果を上げるためには、保健主事のマネジメントやコーディネートが不可欠であ

る。保健主事の果たすべき役割を次のようにとらえて研究に臨んだ。

①児童生徒や学校の実態、課題の把握	②授業案や指導内容の提案
③講師との連絡調整	④資料等の準備、授業者への情報提供
⑤実践の振り返りと評価	⑥家庭や地域への情報発信
⑦事後の見届けと、担任や養護教諭と連携した指導、支援の継続	

６　令和３年度の研究

（１）　研究の方法

令和３年度のねらい

①新型コロナウィルス感染症を予防する対策をもとにして、様々な感染症を予防する正しい知識を身に付けるための学習場面を各校で企画し、実践する。

②正しい情報の入手や理解の促進のために、授業や指導過程に三師の指導を組み込む。

③意識調査・実態調査・行動観察・抽出児の変容等から、学習の評価を行う。

（２）　郡内小中学校共通実践：医師や薬剤師との連携した「正しい手洗い」授業

学校でも家庭でもできる身近な感染症対策の１つである手洗い。しかし、汚れを落としきる手洗いや時間をかけた丁寧な手洗いが定着していないという児童生徒の実態がある。正しい手洗いの仕方を理解し、日常的に実施しようとする意欲や態度を身に付けることで、自らの健康を守り「自ら生き抜く力」を身に付ける一端となることを期待して研究を進めることとした。

１）学習のねらい

①　手洗いの大切さを理解し、これまでの手洗いの仕方を見直し、正しい手洗いの仕方を身に付けることができる。　**（情報を理解する力）**

②　学んだことを家族に伝え、家族の健康の維持に貢献することができる。　**（情報を発信するための力）**

③　手洗いの実践を通して、他の感染症やコロナに代わる新しい感染症から自らの健康を守る「自ら生き抜く力」の育成を図ることができる。　**（情報を活用するための力）**

２）講師　　学校薬剤師

３）手洗いの実態（**①児童生徒や学校の実態、課題の把握**）

・手洗いアンケート（児童・生徒）

問１：学校で、体育や外遊びから戻った時に、手洗いをするか
　①いつもする　②どちらかというとする　③どちらかというとしない　④していない

問２：外から家に帰ったときは、手洗いをするか
　①いつもする　②どちらかというとする　③どちらかというとしない　④していない

問３：手洗いにはどれくらいの時間をかけているか
　①　１分以上　②　３０～１分　③　３０秒くらい　④　１５秒くらい

問４：手を洗うときは、石鹸を使うか
　①いつも使う　②どちらかというと使う　③どちらかというと使わない　④使わない

問５：家ではアルコールなどの薬剤で手指の消毒をしているか
　①いつもする　②どちらかというとする　③どちらかというとしない　④していない

・手洗いアンケート（家庭）

問１　日常、家庭では、家族の皆さんは手洗いをしていますか
①いつもする　②どちらかというとする　③どちらかというとしない　④していない
問２　帰宅時に、家族の皆さんは手洗いをしていますか
①いつもする　②どちらかというとする　③どちらかというとしない　④していない
問３　家族の皆さんは、手洗いにはどれくらいに時間をかけていますか
①　１分以上　②　３０秒～１分　③　３０秒くらい　④　１５秒くらい
問４　家族の皆さんは、手を洗うときは、石けんやハンドソープを使いますか
①いつも使う　②どちらかというと使う　③どちらかというと使わない　④使わない
問５　家庭では、アルコールなどの薬剤を準備し、手や指の消毒をしていますか
①いつもする　②どちらかというとする　③どちらかというとしない　④していない

４）事前アンケートの結果　（児童生徒）（%）　（家庭）（%）

（児童生徒）（%）

	① ◎	② ○	③ △	④ ▲
問1	58	29	7	6
問2	70	17	6	7
問3	13	30	34	23
問4	74	19	4	4
問5	31	28	17	25

（家庭）（%）

	① ◎	② ○	③ △	④ ▲
問１	78	19	2	0
問２	81	16	3	0
問３	5	30	44	21
問４	73	21	5	1
問５	22	40	27	12

このアンケートの結果から、手洗いをする習慣がついている児童生徒の割合がそれほど高くないこと。特に、手洗いにかける時間が短く、正しい手洗いができていないことや、石けんを使用しないで水洗いだけで済ませている児童生徒がかなりの割合でいることなどが明らかとなった。

家庭においては、問１、２の回答から、手洗いの習慣が定着しているといえる。しかし、問３から、時間をかけて正しい手洗いができているとはいえない。家庭内での感染を経て学校にもちこまれ、そこから他の児童生徒、職員に感染が広がることがあり、家庭における感染防止の１つとして、正しい手洗いの習慣を広げていくことが大切である。また、こうしたことを通して、家族の健康の維持、感染症の予防に対する家庭の意識を高めることができるように、児童生徒からの啓発、情報発信に期待をしたいと考えた。

５）授業の実施　（**②授業案や指導内容の提案　③講師との連絡調整　④資料等の準備、授業者への情報提供**）

①　事前アンケートから手洗いの実態を振り返る

【担任】事前アンケートの結果を提示し、手洗いの実態から正しい手洗いが十分に行われていない現状を把握させた。

②　手を介しての感染があることを教える

【薬剤師】汚れやウイルスが、手から食物を介して体内に入ることに加え、手から目や鼻の粘膜をとおして感染することがあることを紹介した。

③　手洗いの実施

汚れに見立てた手洗いチェッカーローションを、手と手首に残すところなく塗り、普段行っている手洗いを実施し、再びブラックライトに照らして汚れの落ち具合を確認をした。

④　正しい手洗いの方法を知る

【薬剤師】汚れが残りやすい場所とその部位の汚れを落とす正しい手洗いの仕方とともに、３０秒以上の時間をかけて石けんで隅々まで洗い、流水で２０秒以上しっかりと洗い流す『３０２０洗い』を指導した。

⑤　「３０２０」洗いの実践

汚れが残っていた部位を意識して、もう一度手洗い（リベンジ手洗い）を行って、ブラックライトで汚れの落ち具合を確認した。

⑥　本時の振り返りとまとめ

【担任】本時の感想を書かせ、その後感想を交流した。

《児童生徒の感想》

- なんどもなんどもあらって、やっとてのひらがきれいになったので、てあらいはむずかしいと思いました。
- 石けんをたくさん使えばよいのではなく、よくこすることで汚れを落とし、ばい菌を退治できることが分かりました。
- 1回目は汚れがあったけど、2回目はきれいになったので、これからも手をきれいにできるよう正しい手洗いをしていきたいです。
- 普段、意識していてもなかなか汚れを完璧に落とすことができていないことを知って、目でみるとピカピカでも数えられないくらい菌が残っていると思うと、怖いなと思いました。寒くて、手を長時間洗うことをこばんでしまうけれど、受験もあるので、新型コロナウイルスやインフルエンザに感染しないように、自分を守るためにもしっかりと手洗いをしていきたいです。
- ３０秒間、手を泡で洗って、２０秒間、手を水で流しながら洗う。このことを、家の人に教えて、いつもその秒数で手を洗いたいです。

【薬剤師】手を介してウイルスやいろいろな菌を体の中に入れないようにするために、「消毒の一番は、正しい手洗いから」を合言葉として、じっくりと時間をかけて隅々まできれいにすること。石けんで３０秒以上洗って２０秒流す「３０２０洗い」を大切にすることを指導した。

⑦事後アンケートの実施（**⑤実践の振り返りと評価**）

手洗いの授業を実施してしばらくの期間をおいて、児童生徒および家庭での手洗いの実態について、授業前アンケートと同じ内容で調査を行った。

・授業後のアンケートの結果　（児童生徒）（%）

		① ◎	② ○	③ △	④ ▲
問１	上段	58	29	7	6
	下段	**76**	**16**	**4**	**4**
問２	上段	70	17	6	7
	下段	**77**	**17**	**4**	**2**
問３	上段	13	30	34	23
	下段	**35**	**37**	**18**	**10**
問４	上段	74	19	4	4
	下段	**80**	**16**	**3**	**2**
問５	上段	31	28	17	25
	下段	**42**	**25**	**14**	**19**

（家庭）（%）

		① ◎	② ○	③ △	④ ▲
問１	上段	78	19	2	0
	下段	**80**	**19**	**1**	**0**
問２	上段	81	16	3	0
	下段	**83**	**15**	**2**	**0**
問３	上段	5	30	44	21
	下段	**14**	**33**	**38**	**14**
問４	上段	73	21	5	1
	下段	**78**	**19**	**3**	**1**
問５	上段	22	40	27	12
	下段	**27**	**40**	**22**	**11**

＊上段：授業前　下段：授業後の結果

授業によって手洗いの大切さを理解し、すべての問いで向上している。特に、３０２０洗いを実践しようとしている児童生徒（問 3-①・②）の割合が高くなっている。しかし、すべての問いで③または④と回答している児童生徒がいることや、本実践での重点の一つである「３０２０洗い」が十分に定着しなかったこと（問３-③・④）から、継続して指導をしていくことや、新たな手立てを打っていくことが必要だと考えた。

家庭については、全体的に向上が見られるものの、大きな改善にはつながらなかった。児童生徒の情報発信や保健だより等による、家族への周知、啓発を強化、継続して、学校と家庭がともに児童の感染防止に努める体制づくりや意識の向上を図る必要がある。

⑧　授業後の働きかけ（**⑦事後の見届けと、担任や養護教諭と連携した指導、支援の継続**）

実際の手洗い場面を担任が見守り、見届けることで、「３０２０洗い」の更なる定着を図った。保健委員会等からの働きかけが行われるように、養護教諭と連携し、児童生徒からの継続した働きかけへとつなげた。また、児童生徒が、学習したことを家族へ伝えることや、保健だよりや学校だよりで家庭に発信することで、家族ぐるみの正しい手洗いの実践や感染防止への関心や意欲の高揚を図った。

⑨　家庭の反応

《保護者の感想》

・子どもたちは、学校でブラックライトを当てたことで汚れが落ちていないことを実感してから、きちんと手洗いをすることを心掛けています。
・以前（コロナ渦前）は、トイレの後や帰宅後、ご飯の前にざっと手をぬらしている程度だったりして、ちゃんと洗えていませんでした。今は学校やニュースでも手洗いの大切さを伝えてくださっているので、本人も意識して洗っています。
・子どもと手洗いの学習について話し合い、石鹸でよく洗ったつもりでもよごれがまだたくさん残ってい

るということを知ったので、これから今までよりも時間をかけてていねいに洗えるように家でも心がけていきたいです。
・帰宅したら「手洗ってね」と声を掛けていたのですが、今では自然に洗面所へ行き、自ら手洗いをします。こちらが言う前にやることができ、聞くと当たり前に手洗いが終わっている状態です。手を洗う習慣がついているのを感じます。

児童生徒から手洗いの情報が家庭に伝わっていることや、家庭における児童の変容が分かる感想が寄せられ、指導の手ごたえが感じられた。

（３）　Ａ中学校の研究　「ＩＣＴを活用した正しい手洗い指導」

新型コロナ感染症がまん延し、三師会の皆さんが忙しく、来校いただくことがなかなかできないことや、感染防止のために外部講師を学校に招いて直接指導をしていただくことが難しいことから、指導の手順に沿った説明や指導を動画にして授業の中で活用した。

１）　講師　学校薬剤師

２）　ＩＣＴの積極的な活用による授業実践（**④資料等の準備、授業者への情報提供**）

事前に薬剤師との打合せを行い、「正しい手洗い」の授業で薬剤師が児童生徒に指導する内容を動画に収め、授業の中で活用できるようにした。

動画にすることで、全校あるいは複数の学級が一斉に学習を進めたり、貴重な教材として何度も活用したりできるという工夫ある実践となった。また、多忙な三師会の皆さんに、長時間あるいは複数回来校して指導していただかなければならないという課題も解消できた。

（４）　Ｂ小学校の研究　「歯みがきによる感染症予防」

コロナ禍を経験した児童自身が、歯科（口腔衛生）指導を通して感染症の防止に努めることができるようにするために、歯科医師に指導と講話をいただいて実践を行った。

１）　学習のねらい

ア感染症を予防するための口腔衛生の在り方についての知識を身に付ける。（**情報を理解する力**）

イ学んだことを積極的に活用・発信することで、自らの健康を守るとともに、身の周りの人々の健康にも意識をもったり、働きかけたりすることができる。

（**情報を活用しようとする意欲・力　情報を発信する力**）

２）　講師　学校歯科医

３）　歯磨きと風邪り患児童の実態（**①児童生徒の実態の把握**）

１日に歯を磨く回数や歯磨きにかける時間と、１年間の風邪へのり患の実態を調査した。その結果、１日の歯磨き回数が多く、時間をかけて丁寧に歯磨きを行う児童は、回数が少なく時間が短い児童に比べて風邪にり患しにくいという実態が明らかになった。

４）　授業の実施

（**②学習指導案の立案　③薬剤師との連絡調整、動画の作成　④資料等の準備、授業者への情報提供**）

① 口の中をきれいに保たないとどうなるか。

【担任】虫歯になる、虫歯が増える以外に、ウイルス、感染、病気などのキーワードを使って、虫歯以外の悪影響を想像させた。

②「口の中をきれいにすることで減らせるもの」について、動画を視聴する。

【歯科医】

・歯にたまった歯垢の中に含まれる菌からプロテアーゼという酵素が出され、これが口の中やのどの粘膜を傷つける。傷つけられた粘膜からウイルスが入る

・歯磨きを丁寧に行って、毎日きちんとのケアすることで、丈夫な粘膜を保つことができる。虫歯の予防はもちろん、ウイルスの侵入を防ぎ、病気から体を守る効果がある。

③本時の振り返りとまとめ

【担任・歯科医】歯磨きを正しく行って口の中をきれいに保たないと、かぜやインフルエンザ、コロナなどのウイルスが入りやすくなる。時間をかけて丁寧に歯磨きをすることは病気をなくすことにもつながる。

５）保健だよりの発行（**⑥家庭や地域への情報発信　⑦養護教諭との連携**）

①保護者に対し、自分や家族のコロナ感染予防を今一度見つめ直してもらうために、歯みがき指導の「授業」の後、歯みがき実施の「状況調査」の集計結果とともに、「保健だより」を作成周知した。

②事後アンケートの実施（**⑦事後の見届けと、担任や養護教諭と連携した指導、支援の継続**）

前回の調査（令和３年１２月）から６か月の期間をおいて、令和４年６月に家庭での児童の歯みがき実施状況の実態について、同じ内容で調査を行った。

・家庭における歯みがき実施状況および風邪り患調査

１日に歯磨きをする回数　（%）

		１回	２回	３回	４回以上
歯磨きの回数	Ｒ３	９	６７	２３	１
	Ｒ４	9	75	16	0

１回の歯磨きにかける時間　（%）

	１５秒	３０秒	１分	１分３０秒	２分	２分３０秒	３分	３分以上
Ｒ３	６	１６	１９	２１	１０	１５	７	６
Ｒ４	5	8	28	19	18	9	8	5

風邪にり患した児童　（%）

		り患した	り患していない
風邪のり患	Ｒ３	４９	５１
	Ｒ４	36	64

２回の調査結果を比較すると、「１年以内に虫歯になった児童」の割合が２回とも同じだったのに対し、「１年以内に風邪をひいた児童」の割合は前回よりも１３％低くなっていたことから、歯磨きの感染症の予防への効果を感じた。

（５）　医師会、薬剤師会と連携したポスターの作成、家庭への配付

郡内の多くの学校で進めている手洗いの授業の内容を参考に、学校保健会として「手洗い啓発ポスター」を作成した。汚れが残りやすい部位を取り上げ、正しい洗い方を写真付きで解説した。製作については、揖斐郡医師会並びに薬剤師会の先生の指導、助言をいただいた。大判のポスターも同時に作成し、各学校の教室や手洗い場等に掲示をした。

また、各学校において、正しい手洗いの啓発と感染防止の意欲の向上を図る指導を行うとともに、すべての小中学生および令和４年度の小学１年生に配付し、自宅に持ち帰って、家族も意識できる場所に掲示することを指示した。

７　令和４年度の研究

感染の収束がみられないまま、新型コロナウイルスは変異を繰り返し、よりその感染力を増してきた。そして、７月には、これまでにない爆発的な感染拡大となる第７波を迎え、８月１９日には全国で２６万人を超える新規感染者が確認され、過去最多を更新するに至った。

こうした中で、令和４年度は、３年度に学んだ「正しい手洗い」を習慣化できるような働きかけを継続して行うとともに、手洗い指導を手掛かりとして、「自らの健康を、進んで守ろうとする意識を高める新しい指導」を、学校医や薬剤師と連携し、各学校で工夫して研究を進めることとした。

（１）　研究の方法

①正しい手洗いについて、教師から児童生徒への継続的な指導や啓発をすることをとおして、「自らの命や健康を、進んで守ろうとする意識を高める」心や態度の育成を図る。

②正しい手洗いと感染症の防止について、児童、生徒から全校児童、生徒へ、児童、生徒から家庭や地域への情報発信をする。
③各学校において、「自らの命や健康を、進んで守ろうとする意識を高める」ための新しい指導を企画して実践を行う。
＊学校保健会の立場として、三師会との連携（参画、指導、助言）に基づいた研究実践を行う。

（２）　Ａ小学校の研究　　「正しい手洗い」の授業

今年度入学した１年生にとっては初めての手洗い授業である。２年生と併せて学校生活の初期に正しい手洗いの仕方を身に付け、自らの健康の保持、増進に努めることができるようになることを願い、昨年度までの実践を継承して、低学年の児童に対して「正しい手洗い」の指導を行った。

１）　学習のねらい
①手洗いの大切さを理解し、これまでの手洗いの仕方を見直し、正しい手洗いの仕方を身に付けることができる。　**（情報を理解する力）**
②学んだことを実践し、健康を維持しようとすることができる。
（情報を活用しようとする意欲・力）
２）　講師　　学校薬剤師　　中北薬品保健指導担当者（２名）
３）　授業の実施（**②授業案や指導内容の提案　③講師との連絡調整　④資料等の準備、授業者への情報提供**）
①「ばいきん」は手から粘膜を経て体内に入る
【担任】多くの人が触れる場所に付着した「ばいきん」が手について、口や鼻の粘膜から体の中に入ってしまう。手洗いをすることで、体の中に入るばいきんを減らし、病気になりにくくする。
②手洗いの実施
手洗いの・手洗いチェッカーローションを手に塗り、普段の手洗いを行った後にブラックライトで照らし、洗い残しがあったところを全体で確認した。
③「正しい手洗い」の理解と実施
汚れを残さない「３０２０洗い」を理解し、汚れが残りやすいところを重点的に洗うことで、残っていた汚れが落ちたことをブラックライトで確認した。
④本時の振り返りとまとめ
【薬剤師】体の中にばいきんを入れないためには正しい手洗いをすることが大切なこと、また、寒い時期の方がばいきん（ウイルス）が元気になるため、水が冷たくても手洗いを確実に行うことなどを指導した。
４）第１回学校保健安全委員会での報告（**⑥家庭や地域への情報発信**）
夏休み中に行った第１回学校保健安全委員会において、正しい手洗いの学習の実践を、保健主事から報告した。併せて、この会に参加していただいた薬剤師から

は、ウィズコロナでは、手洗いが基本。日常生活での手洗いを徹底することや、家庭での手洗いについて、流水で洗ってどこが汚れているのか考えながら洗うことが大切であることを指導いただいた。

（３）　Ｂ小学校の研究

インタビュー動画を活用した「正しい手洗い」の授業

正しい手洗いの仕方を振り返り、やがて迎える夏休みを健康に過ごすことができるように、保健主事が学校薬剤師にインタビューをする動画を作成して、全校一斉に視聴して学習をした。

１）　学習のねらい

①手洗いの意義と正しい手洗いの方法を振り返るとともに、夏休みを健康に過ごすために留意することを学ぶ。　**（情報を理解する能力）**

②夏休みを健康に過ごすために留意することを学び、実践することができる。

（情報を活用しようとする意欲・能力）

２）　講師　　学校薬剤師

３）　授業の実施（**②授業案や指導内容の提案　③講師との連絡調整　④資料等の準備、授業者への情報提供**）

保健主事から薬剤師に、次の３点についてインタビューをし、解説をしてもらう動画を視聴し、その後各学級において学級活動を実施した。

・どうして正しい手洗いをしないといけないのか。

・正しい手洗いのポイントは何か。

・夏休みの家庭での生活で気を付けることは何か。

学級活動では、各学級で、正しい手洗いの意義や仕方を振り返ったり、夏休み中の手洗いや規則正しい生活について話し合ったりした。

（４）　Ｃ小学校の実践　「換気と感染症の予防」

感染防止のためには換気が大切だと言われる。寒い時期やエアコンを使用する時期においては、換気が不十分になりがちである。コロナ禍を経験した児童自身が、感染防止や自らの健康の維持・増進のために換気の意義を知り、学校や家庭の換気について関心をもてるようにしたいと考えた。

１）　学習のねらい

①感染症を予防するための効果的な換気についての知識を身に付ける。　**（情報を理解する能力）**

②学んだことを積極的に活用・発信することで、自らの健康を守るとともに、身の周りの人々の健康にも意識をもったり働きかけたりすることができる。

（情報を活用するための能力　情報を発信するための能力）

２）　講師　　学校薬剤師

３）　職員研修

①薬剤師からの指導、助言（**③講師との連絡調整　④資料等の準備**）

【保健主事】学校薬剤師を尋ね、授業づくりへの指導、助言をいただきながら、授業で提示する資料を作成した。

②職員向けの伝達講習（**②授業案や指導内容の提案　④授業者への情報提供**）

【保健主事】換気の授業を実施する前に、学校での換気の実施状況を教師自身が見つめ直して授業を行うことが大切だと考えた。また、担任により指導がぶれることなく、効果的な換気の仕方や必要性を確実に児童に伝えることができるように、職員研修（保健主事からの伝達講習）を実施した。教師自身が学校での換気の実施状況を見つめ直すとともに、授業で提示する資料や情報を教師間で共有することで、授業における児童の反応を予測する手がかりとした。

４）　児童への保健指導

【保健主事・担任】朝の活動を使って、保健主事が校内放送で全校一斉に指導を行った。薬剤師の監修によるイラスト資料を全学級に配信し、換気の大切さや効果的な換気の仕方、換気以外で自分にできることなどを学んだ。閉め切った部屋の空気はだんだん汚れていくことや空気中にはいろいろなウイルスや細菌などが飛んでいることに対し、児童から驚きの表情が伺えた。また、換気をすることで空気の汚れが改善されていくことを知り、安堵の表情が伺えた。

５）家庭への換気の啓発（**⑥家庭や地域への情報発信　⑦養護教諭との連携**）

保護者に対し、自分や家族のコロナ感染予防を今一度、見つめ直してもらうため、換気の授業後、指導内容をもとに、「保健だより」を作成し発行した。前年の学習「消毒の一番は手洗いから…」と「口の中をきれいに」に加え、今回の「効果的な換気」の学習も、児童自身が実践できる力として身に付けることを期待している。

私は学校薬剤師です。今回学んだことを**学校生活の中で一人一人が正しくできるようになってほしい**です。そして、**家庭の換気について も考えていただけると大変ありがたい**です。

（５）　Ｄ小学校の研究　　「マスクの効果と熱中症予防」

７月に入り、第７波感染拡大に向かって感染者が増え始めた。例年になく早い梅雨明けとその後の高温の日々。その中でも、マスクを外さない児童が多い。新型コロナ感染症の予防に十分に配慮しながら、熱中症のリスクから自分を守ることができる児童の育成を願い、この指導を実施した。

１）　学習のねらい

①マスクの効果やマスクを着用することの必要性を理解するとともに、暑い季節は熱中症を予防するために、マスクを外して生活することの必要性に気付き、自らの正しい判断に基づいてマスクの脱着を適切に行って、感染症と熱中症から自分を守ろうとする態度を養う。

（情報を理解する力　情報を活用しようとする意欲・力）

②学んだことを家族にも伝え、家族の健康の維持に貢献することができる。

（情報を発信するための能力）

２）講師　　学校薬剤師

３）授業の実施　（感染の拡大により、全校一斉にオンライン配信の授業とした）

① 学校で感染がおこりやすい感染症と、その感染経路を知る。

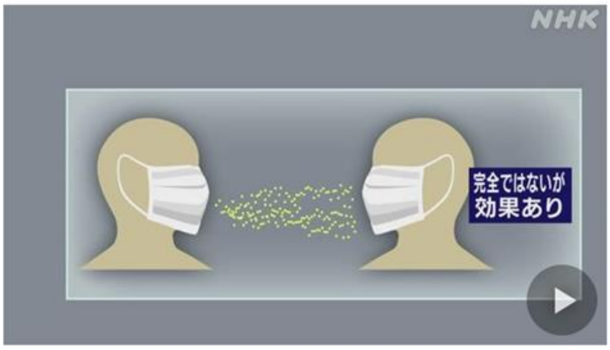
【保健主事】インフルエンザ、はしか、おたふくかぜ等、学校で広がる主な感染症には、多くの種類があることを説明した。

【薬剤師】感染経路には、飛沫感染、空気感染、接触感染等があることを解説した。

② 感染防止とマスクの効果

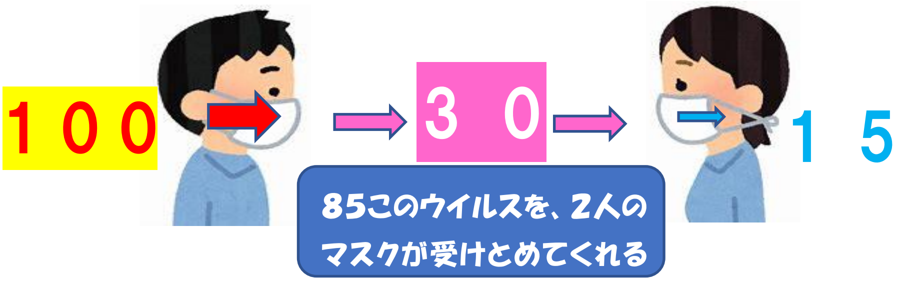
実験の動画の視聴

ウイルスの量は、ウイルスを出す側がマスクをすることで７０％、吸い込む側がマスクをすることで、さらにその４７％を減らすことができる。



『マスクでウイルス拡散抑え吸い込み減らす効果 東京大など確認』
https://www3.nhk.or.jp/news/html/20201022/k10012674851000.html

【薬剤師】低学年児童にも理解できるように、ウイルスの個数に例えて解説した。



③ 暑い季節のマスクのリスク

【薬剤師】マスクを外すように呼び掛けても外さない児童が多い。薬剤師より、感染による命の危険と熱中症と命の危険にも言及しながら、これからの暑い季節には、熱中症を予防するために、自分で判断をしてマスクを外すことの大切さを説明した。

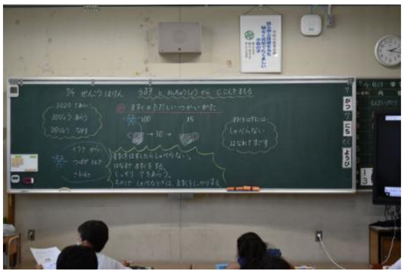
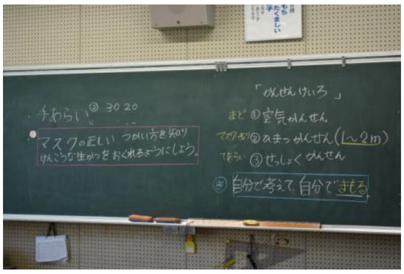
④ 本時のまとめ

【薬剤師】自他の命を守るために、自分で正しい判断をしてマスクの着脱ができるようになることや、コロナ感染症の予防に努めるために、マスクを外した時には守らなければならないことがある

ことを説明した。

⑤　学級指導

【担任】一斉指導の後に、それぞれ学級活動を行い、マスクをする場面と外す場面、外した時に気を付けることについて再度確認をした。

（６）　Ｅ中学校の研究　「部活動における熱中症と感染対策」

中体連の大会を前に、運動部で活動する生徒に向けて、部活動壮行会の場で、保健委員会の生徒による、感染防止におけるマスクの効果や必要性を説明した。運動時のマスク着用による熱中症リスク、マスク非着用時の留意事項について、歯科医師による指導助言をもとに作成した資料を見せながら、全校一斉の学習を行った。

１）学習のねらい

①マスクの効果やマスクを着用することの必要性を理解するとともに、暑い季節の運動部の活動では、熱中症を予防するためにマスクを外して活動することの必要性に気付き、感染症と熱中症から自分を守ろうとする態度を養う。　**（情報の理解・情報を活用するための意欲）**

②体育や運動部の活動の中で、学んだことを自らの正しい判断で実践できる。

（情報を活用するための力）

２）講師　学校歯科医

資料を作成するにあたり、学校歯科医に「運動中のマスク着用が及ぼす体の変調や変化」について指導、助言をいただいた。

３）事前アンケートの実施（**①児童生徒や学校の実態、課題の把握**）

質問項目	実施前「はい」	実施後「はい」
活動中、マスクをして息苦しくなったことがあるか。	94	100
活動中、マスクは自分の判断で外しているか。	100	100
「熱中症」の症状を知っているか。	72	98
活動中、「熱中症」や「感染」を予防しようと意識しているか。	64	92

運動部での活動中に、マスクにより息苦しさを感じている。しかし、自分の判断でマスクを外していると言いつつも、顧問からの指示がないとなかなか外さない生徒がいる。また、熱中症の症状やマスクをして運動をすることで、熱中症のリスクが高まることについての理解や意識はそれほど高くないこと等が明らかになった。

４）　指導（**③講師との連絡調整　④資料等の準備、授業者への情報提供**）

①マスクによる感染防止と、熱中症のリスク

【保健委員　指導助言：歯科医】マスクの感染防止効果は高く、日常生活にはマスクはまだまだ欠かすことができない。しかし、運動時にマスクを着用することで、マスク内の温度は３℃以上上昇する。口からの熱の発散を妨げたり、口の渇きを感じなくなるために塩分や水分補給が不十分となったりして、熱中症のリスクが高まる。

②熱中症の症状と対応

【保健委員　指導助言：歯科医】運動中に、手足のしびれやめまい、吐き気、頭痛、だるさなどを感じたら、熱中症の可能性を疑う。そうした時は運動を中止し、水分補給をしたり体を冷やしたりするなどの処置をする。心配な時にはためらわずに医療機関を受診する。

中体連に向けて練習が熱を帯びてくる中、感染防止にためのマスクの着用とともに、熱中症の症状や対策についての知識を得るよい機会になった。生徒はもちろん、顧問も含めて全校一斉に実施することで、感染防止と熱中症予防を互いに気に掛けることができるようになった。

８　研究の成果と課題

（１）成果

○「正しい手洗いの授業」の実施に当たって、合言葉『消毒の一番は、正しい手洗いから』および、正しい手洗いの方法としての『３０２０洗い』を揖斐郡のスタンダードとすることができた。

○本研究をとおして、学校の保健活動及び健康教育を推進する上での、保健主事の役割とマネジメントの在り方を確認することができた。児童生徒や学校の状況や課題の把握、外部講師との連絡調整、学校職員への情報の提供、養護教諭や担任との連携といった役割を担うことで、今後の感染症の予防を含めた保健活動や健康教育の推進に力を発揮していくことができる。

○三師会の先生方やその他外部講師の、授業や指導への参画を実現できた。また、医師や薬剤師による解説や指導を動画に撮り、授業の中で効果的に流して活用したり、全校一斉の指導を行ったりすることで、実践に広がりをもたせることができた。さらに、保健主事が三師会との連携をしながら、効果的な学校保健活動及び健康教育の推進を図る道筋を明らかにすることもできた。

（２）課題と今後の取組

●「自ら生き抜く力」基礎となる「５つの力」を明らかにして取り組んだ。これらの力は、一朝一夕に身に付くものではなく、さらなる育成、向上を目標として、三師会や家庭との連携を大切にしながら、各学校で実践を継続したり、学校の状況や課題に即した新しい実践を行ったりしていくことが大切である。